川俣町前田遺跡の調査について

公益財団法人福島県文化振興財団
遺跡調査部　　三浦　武司

はじめに

公益財団法人福島県文化振興財団では、福島県教育員会の委託を受け、国道 114 号（山木屋１工区）改良工事にともなう前田遺跡の発掘調査を４か年にわたって行いました。今年度から発掘調査報告書作製のための整理作業を進めています。見つかった住居跡や柱穴などの遺構、土器や石器などの遺物について、それぞれの年代や特徴を詳しく分析し、報告書としてまとめます。前田遺跡では、有機質資料を含む多種多様な遺物が出土しました。理科学的分野の研究者も含め多くの方々の協力を得て研究を進めています。その中で、新たな発見に驚き、縄文人の考えや行動などを感じ取ることもあります。今回は、そのような作業の中で少しずつ分かってきたことの一端をご紹介します。

前田遺跡出土品を調べる

前田遺跡出土資料では、様々な分野からの協力を得ながら多くの分析を行っています。分析調査することで、製作年代や使用年代、縄文人の技術、使用した材質などの情報を得ることができます。それは縄文時代の新しい姿を映し出す手掛かりになります。さらに、この情報は、出土資料の保管や保存処理を行う際にも重要な役割を果たします。資料の構造や劣化状態などを知ることで、最適な環境を保って後世に残していくための重要な情報源にもなります。

どんな方法	*なにを調べる？*	*なにがわかる？*
樹種同定	木の種類を調べる	道具の木の利用がわかる
^{14}Ｃ年代測定法	年代を調べる	製作、使用、伐採などの年代がわかる
塗膜分析	資料の断面を調べる	塗料の材料、塗装工程がわかる
蛍光Ｘ線分析	構成元素を調べる	顔料や混和材の種類がわかる
赤外分光分析	有機資料の化合物を調べる	塗料や接着剤などの種類がわかる
Ｘ線ＣＴ法	製品内部を調べる	肉眼で見えなかった構造がわかる

まさに適材適所

前田遺跡の木製品の素材の樹種を見てみると、まさに「適材適所」です。前田縄文人は、道具の特徴や使用法に合わせて樹種を選択して使用したことがわかってきました。容器類は、現在の漆器でも使われる木目の美しい樹種を選択しています。石斧の柄は堅い樹種の枝分かれした部分を上手に利用しています。刈払具や土掘具は、真っすぐに伸びる長くしなやかな樹種を用いています。弓には、ニシキギ属のみを厳選しています。縄文人たちは、木取りや木目、節の有無など、素材とする材の形や特性をよく理解した上で選別を行う、優秀な「木の目利き」であったようです。

道具の種類	***素材とした木の種類***
容　器　類	ケンポナシ属・ケヤキ・カエデ属・トチノキ・カツラ属
石　斧　柄	ニレ属・クマノミズキ属・コナラ属コナラ節・カエデ属
刈　払　具	ムラサキシキブ属・ガマズミ属
土　掘　具	ムラサキシキブ属
弓　（弓幹）	ニシキギ属

前田遺跡と漆とウルシ

縄文人とウルシ（漆）は古くから関わり合いがあったようです。漆は、塗料・接着剤として利用されてきました。前田遺跡でも木器や土器、植物繊維に使われています。さらに遺跡内からは、掻き傷のあるウルシ木、製作途中の器、漆液容器、赤色顔料のベンガラとそれを粉砕する石器そして多くの漆製品が見つかっています。

	時期	年代	できごと	主な遺跡
縄文時代	草創期	約15,000～11,000年前	土器が製作され始める/竪穴住居が造られる/弓矢の発明/ウルシが日本に存在	鳥浜貝塚（福井県）
	早期	11,000～7,000年前	土器が普遍的に作られる/集落が形成される/貝塚が形成される/漆の利用の開始？	垣ノ島B遺跡（北海道）三引遺跡（石川県）
	前期	7,000～5,500年前	気候の温暖化・海水面の上昇（縄文海進）/環状集落が造られ始める/土器の器種の多様化/漆利用が多く認められるようになる	夫手遺跡（島根県）/大武遺跡（新潟県）鳥浜貝塚（福井県）/押出遺跡（山形県）
	中期	5,500～4,500年前	大規模集落の形成/土器の大型化・立体的な装飾/	デーノタメ遺跡（埼玉県）/**前田遺跡**
	後期	4,500～3,200年前	集落の小規模化と拡散/土器の精粗の明確化/低地部の利用の増加/全国的な漆製品の増加	下宅部遺跡（東京都）/南鴻沼遺跡（埼玉県）/上境旭台貝塚（茨城県）/分谷地A遺跡（新潟県）/忍路土場遺跡（北海道）
	晩期	3,200～2,300年前	彫刻的な手法の土器が造られる/掘立柱建物の増加/籃胎漆器の製作/漆芸技術の発達	寺野東遺跡（栃木県）青田遺跡（新潟県）是川中居遺跡（青森県）亀ヶ岡遺跡（青森県）/荒屋敷遺跡（福島県）

おわりに

前田遺跡の縄文人は、素材を選ぶ確かな目と知識、卓越した木工技術、高度な漆塗技術、鮮やかな色彩感覚などに長け、現代の私たちにとっても驚きの発見ばかりです。さらに、これらがまとまって見つかったことで、植物資源を利用した当時の生活が見えてきました。前田遺跡を手がかりとした「読み直すふくしまの歴史」は、まだまだ続きます。

To be continued・・・